

## 27日から大樹町多目的航空公園でNAL

# 航空機使った 風の調査実施

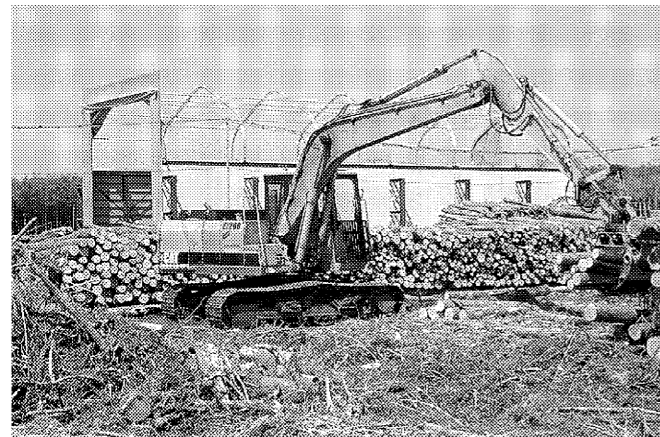
### 成層圏プラットフォーム実験に向け

【大樹】飛行船による通信放送・地球観測システム「成層圏プラットフォーム」の実験場となる町多目的航空公園(町美成)で27日から独立行政法人「航空宇宙技術研究所(NAL)」が航空機を使った風などの調査を行う。同公園では近く気象観測レーダーの建設工事も始まり、9月から実験に向けた気象データの収集が開始される予定。

(小林祐己)

NALの実験は27日から29日まで3日間の予定で、ドルニエ機を使用。向

き、付近の地形などのデータを収集する。気象レーダーの建設は、総務省の認可法人「放送・通信機構(TAO)」が実施。8月までに、町が新規購入した公園南側の敷地に「気象ドップラーレーダー」1基を建てるほか、北側の敷地に「VHFレーダー」三十数基を設置する。



実験地造成に向けた伐採などが進む町多目的航空公園

ドップラーレーダーは高さ10層に設置した直径約3層のアンテナから電波を発生し、反射波で周囲約100キロの降雨や風速などを調べる。VHFレーダーは高さ約1・6層の棒状のアンテナ群で、真上に電波を発生して上空

約10層までの雲の動きなどを把握できる。このほか同公園では、今月から町が実験場用地9・2分の伐採を行って

いる。6月議会に補正予算を提出して用地造成に着手し、年内にNALなどによる飛行船格納庫、実験支援棟などの基礎工事が始まる予定。